

# 1

## セーフティファースト (ど安全に)

「安全第一」は  
企業経営の、基本中の基本

私たちのまわりには、便利な道具や快適な製品が満ちあふれています。これらを使う場合の安全(製品安全)と、こうした製品を生み出す工場で、設備稼働時や人の作業時の安全(設備安全・作業安全)を確保しなければなりません。工場では日当たり生産量を遵守するために、ともすると安全について忘れがちになります。このようなチョットした気のゆるみが、災害を発生させてしまうのです。

ひとたび起こってしまった災害は取り返しが利きません。そこで安全確保のため、設備や人に対する投資などを企業経営の第一優先課題と位置づけ、「安全第一」と表明します。「安全第一」とは米国の鉄鋼会社、USスチール社のゲリー社長が提唱し、自社の災害撲滅のため、従来の「生産第一・品質第二・安全第三」主義から、「安全第一・品質第二・生産第三」主義への変更を誓ったものです。こうした社内改革により災害が減少し、あわせて品

質や生産性も向上したことが知られています。このように、安全第一を企業経営の第一優先目として据えることで、人・設備への投資など各種安全施策を充実させ、災害を減少させます。さらに、これにより品質や生産性の向上ができ、明るい活動的な企業に生まれ変わることができます。

まず、安全第一の目的を理解し、安全マネジメント能力の向上に向けて取り組みます。安全活動の運営能力のみならず、不安全箇所の感知能力や潜在的な不安全箇所の顕在化能力の向上を図ります。効果的な安全施策を行い、現場の目線に沿った、また作業者の知恵を活かした改善を実施します。そのためには、啓蒙や教育訓練も必要です。

このとき、「安全第一」の文字だけでなく緑十字のシンボルと合わせて、安全旗や安全腕章、安全帽に貼る安全シール、安全心得、安全タワー、安全の門などに表示すると、啓蒙に有効です。

### 「安全第一」の4つの留意点

#### ①目的の理解

安全第一の目的を理解する

安全第一

#### ②安全マネジメントの能力向上

安全活動の運営能力のみでなく、不安全箇所の感知能力、潜在的な不安全箇所の顕在化能力を向上させる

災害の減少

#### ③効果的な安全施策

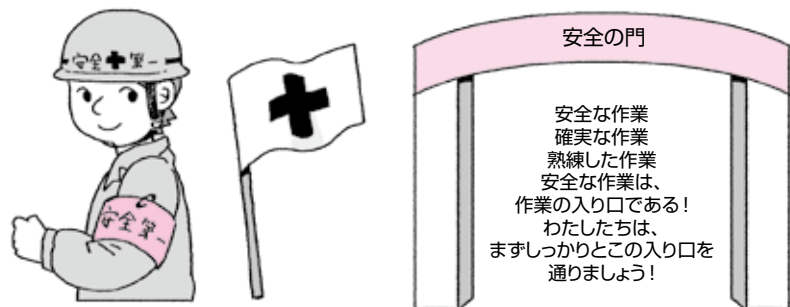
現場の目線に沿った、また作業者の知恵を活かした施策と改善をする

#### ④教育訓練

啓蒙や実務能力向上のための教育訓練を行う

品質・生産性の向上

### 「安全第一」の啓蒙ツール



#### 用語解説

**製品安全**：工場などで生み出される製品や、製品を使って行われるサービスの安全性を指す。製品の機能上の安全に加えて、あらゆる使用状況・環境を考慮し、使いやすく誤用されない設計が求められる  
**労働安全(作業安全、設備安全)**：労働は機械設備や素材、工具などを用いて行う。その際の作業方法や作業環境を整備して、ケガのない安全な職場にすること

#### 要点BOX

- 「安全第一」を企業経営の基本に据える
- 「安全第一」は生産性向上など利益確保にも貢献する

# 2 安全は利益の源

安全は儲かるもの

経営者にとっては、社会に役に立つ企業として継続的に発展させていくことが命題です。そのためには、適正な利益を生み出さなくてはなりません。利益は、簡単に言うとなら売上から経費を差し引いたものです。したがって、利益を確保するためには売上を増やすか経費を減らすことになります。

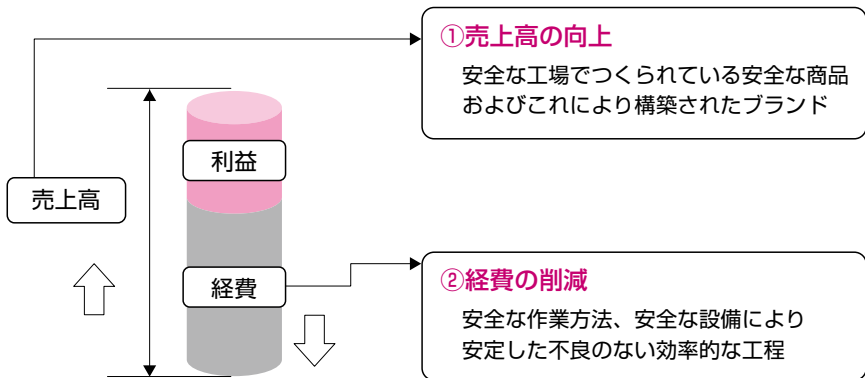
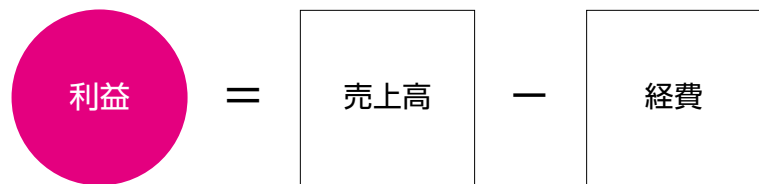
企業は商品やサービスを提供し、対価を受け取ります。商品やサービスを購入しようとする顧客は、商品の機能や品質、価格、納期などを勘案して購入先を決めます。このとき、環境や安全に配慮した商品・サービスであるかが重要になってきます。たとえば、引き戸に設けられた指はさみガードなどはその一例です。商品の使用時に問題が起きると企業価値は下がりますが、逆に顧客満足を提供できると、企業イメージやブランドの向上に好影響を与えます。ひいては売上増につながります。商品やサービスを顧客に提供するには、原材料費

や人件費、エネルギー費などが伴います。商品開発の際に単純な安全配慮設計を行うと、その分の原材料費、加工費、作業時間、人件費が増加します。したがって、これらの増加要因を解析し、費用低減活動に着手します。こうした活動によるノウハウの蓄積により、現場の改善能力が向上します。

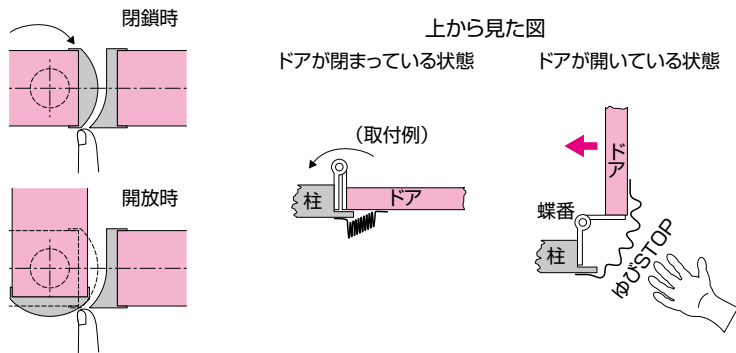
現場の作業安全・設備安全のレベルを改善活動で引き上げると、作業がしやすくなり生産性も向上します。何よりも作業者はケガによる痛みがなくなり、非常作業を回避できることで計画通りに生産が進められ収益に大きく貢献します。

安全に配慮した商品・サービスでマーケットリーダーとなり、付加価値を向上して売上増を狙うのです。VEなどの改善活動を通じて費用を捻出し、作業安全・設備安全を進めることで生産性向上を図ります。こうした展開は、しっかりした青写真を描きながら計画的に進めるとよいでしょう。

## 利益の構造



## 安全配慮商品の例



### 用語解説

**安全配慮**：労働者が生命や身体などの安全を確保しつつ、労働することができるよう、使用者が配慮することを意味する

**マーケットリーダー**：ある市場で最大のシェアを持つ企業およびブランドのこと。市場拡大、新規顧客獲得、購入量増大、新製品投入を戦略とする

### 要点BOX

- 安全はブランドの向上に役立つ
- 安全はロスの削減に役立つ
- 安全を意識した商品開発は収益につながる

# 3

## 安全における トップの役割

ますます求められるCSR

労働安全を推進する上で、トップの役割は重要です。行政機関による産業事故災害防止対策会議では、トップの役割を次のように提示しています。

○安全確保を企業経営の最重要課題として位置づけ、その旨を表明すること

○自らの責任において関係法律を遵守し、安全確保に向けた実効性のある活動を展開できる仕組みを構築し、実施すること

災害の発生が少ない安全、先進、企業は、トップが積極的に安全関連のイベントや施策を仕掛けるなど、さまざまな工夫をしています。このようなトップの責務としては、「安全第一」の考えを企業経営として徹底すること、そして自らが安全衛生活動を率先垂範することが挙げられます。

作業安全や設備安全を確保するため、危険性の評価と災害防止措置の実施、すなわちリスクマネジメントも重要な取り組みです。このほか安全性向上

のための設備投資・人的教育訓練や、協力会社との連携による安全衛生コミュニケーションの緊密化、具体的なKYT活動、想定ヒヤリ活動、災害体感活動などを現地・現物による確認も欠かせません。

具体的には、企業理念やミッション、方針などへの安全事項の表明から実施します。安全掲示板などによる社内掲示のみならず、HPなどで社外へ公表し、社会的な評価を高めるとともに社内の安全意識向上に務めましょう。ほかにも、安全道場の設置による安全管理体制と教育の充実や、ヘルメットに「安全宣言」シールを貼り付けるなど個人別の具体的な安全行動に展開します。

企業トップが強い「安全意識」を持ち、「安全方針」を示しつつ、作業者個人レベルの「安全宣言」を実施することは、企業の社会的責任を果たす上で必須です。品質、環境、法令遵守、消費者問題、労働慣行などとともにCSRの一翼を担っています。

### 企業トップの安全責務一覧

- 1 「安全第一」の考えを企業経営として徹底
- 2 企業トップ自ら安全衛生活動を率先垂範
- 3 安全のためのリスクマネジメント
- 4 安全性向上のための設備投資および人的教育訓練
- 5 関連会社、協力会社との連携、コミュニケーションの緊密化
- 6 安全衛生活動を現地・現物確認

### 企業トップの具体的実施事項一覧

- 1 企業理念、ミッション、方針などへの安全事項の盛り込みと表明
- 2 社内外に向けたHPなどでの公表。社会的な評価の向上や社内の安全意識の向上を推進
- 3 会議体整備と安全管理体制の充実
- 4 具体的な安全衛生活動の推進指示
- 5 具体的な安全行動を支援

#### 用語解説

**企業理念、ミッション**：企業が存在する意味や基本的な考え方、進むべき方向性を示したもの。全員が共有思想として持ち、達成に向けて求心力を高めることができる  
**CSR (corporate social responsibility)**：「企業の社会的責任」と言われる。利益追求のみでなく、ステークホルダーに対して安全衛生や説明責任、法令遵守など企業活動に責任を求めている

#### 要点BOX

- CSRの中で安全は最重要事項の1つ
- 企業のトップには安全責務に対する認識と具体的な執行が問われる